

「公園活性化プラン」の骨子案 (目指す姿と課題、取組の方向)

- (1) みよし公園 P 3
- (2) びんご運動公園 P 8
- (3) せら県民公園 P13

公園活性化の検討の流れ

あるべき姿（30年後）3公園共通

子供からお年寄りまでの誰もが何度でも気兼ねなく訪れたいくなる「多様性」があり、「自然と都市の近接性」を実感できる場として県民から愛されるとともに、県民の健康・スポーツなどの夢や希望への「挑戦」を後押しする公園の実現

目指す姿を設定するうえでの考え方

- 目指す姿は、「多様性・愛着・施設水準の確保・公園ごとの特性」を加味して設定
- 目標指標には、公園の活性化の指標として分かりやすい利用者数や満足度を設定

現状と目指す姿のギャップから、課題・取組の方向を設定

公園ごとの特性

みよし公園

- 備北圏域のスポーツの中核施設
- 集客力の高い類似施設と競合
- 高速道路からの良好なアクセス性

びんご運動公園

- 県内スポーツの中核施設
- 高い施設水準
- 高速道路からの良好なアクセス性

せら県民公園

- 数少ない自然観察園を有する
- 周辺に観光施設が点在
- せらワイナリーが隣接

3公園の課題・取組

多様なニーズへの対応

多様性への取り組み

施設水準・コストの適正化

公園ごとの特性に合わせた魅力向上

考慮した視点

- 「活性化に向けた視点」 ●満足度の向上 ●リピート率の向上 ●新規利用者の開拓 ●コスト縮減
 「基本的事項」 ●防災拠点としての役割 ●公共投資の抑制 ●人口減少・高齢化

(1) みよし公園

目指す姿と課題、取組の方向

あるべき姿（30年後）3公園共通

子供からお年寄りまでの誰もが何度でも気兼ねなく訪れたいくなる「多様性」があり、「自然と都市の近接性」を実感できる場として県民から愛されるとともに、県民の健康・スポーツなどの夢や希望への「挑戦」を後押しする公園の実現

目指す姿（10年後、県立みよし公園）

- 多様な人々から高い満足度を得て、誰でも何度でも訪れたいくなる施設となっている。
- 備北圏域の誰もが何らかの関わりを持ち、地域活動の場として積極的に利用されている。また、高速道路でのアクセス性の良さを活かし、文化活動・企業活動などが盛んに行われている。
- スポーツ及びレクリエーション施設では、一定の施設水準が確保され、さらに利用者ニーズに対して柔軟に対応ができており、ゆったりと楽しめる、憩える空間となっている。
- 気軽に予約・利用ができるなど、利用者へのサービスが行き届いており、満足度が高い施設となっている。

【目標指標】 ●利用者数 : 現況（H26~H30）約70万人 → 10年後 現状から手立てを講じない場合 約63万人

→ 10年後 目指す姿を実現した場合 約70万人

●満足度の向上：現況（R03）86%

→ 10年後 約90%（各施策の実施により高い満足度を維持）

※R3利用者アンケート結果（「大変満足」「満足」「概ね満足」という回答の合計値）

現状から手立てを講じない場合と目指す姿とのギャップ

- 飲食・遊戯施設へのニーズが満たされず、バリアフリー対応が不十分となり、全体的な満足度の低下が懸念される。
- 「地域ならではの取組」に関わる人が増えず、地域活動の場としての利用増加が見込めない。また、周辺の類似施設との差別化が図れず、利用者には認知されないことが懸念される。
- 老朽化対策費用の不足で施設の利用制限やサービス低下などが懸念される。
- 利用料金による収入が増加しないため、サービス水準の向上が見込めず、満足度の低下が懸念される。

目指す姿の実現に向けた課題・取組

- ◆ 未活用エリアを活性化し、先駆けて多様化するニーズを満たすため、民間のノウハウや資金を活用し、公園全体の魅力を向上させ続ける。
- ◆ 利用者ニーズに対応した多様性のある施設へ更新し、高い満足度を維持し続ける。
- ◆ 地域活動・文化活動・企業活動の場として活用しやすい環境を作り、周辺施設との差別化を図る。
- ◆ 満足度を維持しながら、施設水準と料金設定の適正化を図り、運営コストの縮減や収入増に取り組む。

県立みよし公園の現状

- 多様な人、多様なニーズへの対応が不十分^{※1}
- 身近な地域との関わりが不十分^{※2}
- 良好なアクセス性が未活用^{※3}
- 老朽化対策費用の予算確保が困難^{※4}
- 満足度は高いが、管理運営費の約8割は県費を投入^{※5}

- ※1) 「バリアフリー化の状況(41%)」「飲食施設・休憩施設(35%)」の満足度が低い、「飲食施設(カフェ・レストラン・バーベキュー場)」や「手軽に家族で楽しめる施設(アスレチック・水遊び場等)」などのニーズが高い。
- ※2) スポーツ大会・教室などを除く地域イベントの開催実績は3回/年で「イベントや催し物の開催・参加(33%)」の改善点が上位。「地域ならではの取組(37%)」の満足度が低い。
- ※3) 利用者のうち、広島市利用者は13%(利用者アンケート結果)
- ※4) 長寿命化計画で算出された必要な老朽化対策費(2億円/年)に対して、現状の予算は1.2億円
- ※5) 管理運営費(R1支出)約1.4億円/年に対して、利用料金及びその他での収入(R1収入)は、約0.3億円/年

目指す姿の実現に当たって考慮すべき課題

(多様なニーズへの対応)

◆利用者ニーズとしては、「カフェ・レストラン」「バーベキュー場」などの飲食施設と、「アスレチック」「キャンプ場」「じゃぶじゃぶ池」「冒険遊び場」「ボルダリング」など、手軽に家族で楽しめる施設が上位にあがっている。目指す姿の実現にあたっては、これらのニーズが高い施設を中心として、ターゲット層の志向を意識しながら、未活用エリアを活性化し、先駆けて多様化するニーズを満たすため、民間のノウハウや資金を活用し、公園全体の魅力を向上させ続ける必要がある。

(多様性への取り組み)

- ◆安全安心に関する満足度は、「バリアフリー化の状況」の項目で満足度が低い。安全安心な施設整備・更新においては、これらを意識した施設整備、更新が必要である。
- ◆社会的には、子育て世代や高齢者、ダイバーシティなど、利用者の多様性への対応が求められているとともに、東京オリンピックの開催などを契機にニュースポーツやアーバンスポーツなどに注目が集まるなど、利用の多様性への対応が求められている。

(周辺施設との差別化)

- ◆利用者の約7割は三次市及び庄原市であるが、「イベントや催し物の開催・参加(33%)」が改善点の上位にあがっており、「地域ならではの取組(37%)」に関する満足度が低いなど、これらを対象とした公園との関わり人を増やす取組や関わり方の幅を広げる取組が十分ではない。目指す姿の実現にあたっては、三次市及び近隣市町をターゲットとし、地域と公園との関わり方の幅を増やし利用率を高める施策の展開が必要である。
- ◆中国自動車道及び尾道自動車道の両方からアクセス可能な三次東インターチェンジの直近に位置する特性を有し、一部、広島市(13%)などの都市部からの利用が見られるが、利用者のほとんどは周辺地域の利用者である。目指す姿の実現にあたっては、この良好なアクセス性を活かした広域的な集客を可能とする本公園ならではの魅力づくりが必要である。

(施設水準や運営コストの適正化)

- ◆管理運営費(R1支出)は約1.4億円/年を要しているが、利用料金及びその他での収入(R1収入)は、約0.3億円/年であり、不足分は県費で補っている。十分な予算確保が難しい場合には、利用者サービスの低下を招きかねない状況である。目指す姿の実現にあたっては、限られた予算の中で、管理コストの縮減や収入増加への取組が必要である。
- ◆供用開始から30年が経過し、必要な老朽化対策費用(2億円/年)に対する予算確保が難しく、施設の利用制限やサービス低下などが懸念される。また、日常的な利用状況や大会開催状況と、整備水準との不整合が一部見られることから、更新時の施設水準の適正化が必要である。
- ◆上記のとおり、維持管理・更新費用が不足するなか、スポーツ振興やレクリエーション機会の創出といった公共の役割にも配慮しつつ、提供するサービスの水準や利用料金等の適正化が必要である。
- ◆SDGs(持続的開発目標)が世界的に注目されるなか、SDGsに着目した整備、維持管理、更新が必要である。

目指す姿の実現に向けた取組の方向（県立みよし公園） ※施策例あり

1	2	3	4
<p>多様なニーズへの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ●未活用エリアを対象とした多様なニーズへの対応検討 (施策例) ・未整備用地及び低未利用地の活用検討（文化の広場や菖蒲園など用途変更など） ・ニュースポーツ・アーバンスポーツ施設の整備検討 ・P-PFIによる飲食施設の導入検討 ・Free-wifiの導入検討 ●特に要望の高い「飲食・休憩施設」「子供と手軽に遊べる施設」の導入検討 (施策例) ・キッチンカーや露店などの出店手続きの簡素化・スマート化 ・アスレチックやじゃぶじゃぶ池等の整備検討 ・体験プログラムの導入 ●自然、緑、敷地の広さ等を活かしたオープンスペースの魅力向上を図る。 (施策例) ・多様な使い方が可能なオープンスペースのリニューアル 	<p>多様性への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子育て世代や高齢者、障害者等が気軽に利用できるような環境づくり (施策例) ・バリアフリー対策の実施 ・子育て支援施設の整備 ●園内動線（歩車分離）やバリアフリー対応、夜間利用時の防犯、トイレやサインなどのユーティリティ施設など、日常利用の安心安全への対応。 (施策例) ・安全点検やバリアフリー点検の実施による対策箇所の抽出と段階的な対策実施 ・きれいで気持ちよく利用できるトイレへのリニューアル ●文化活動、企業活動の場としての活用検討 (施策例) ・体験イベントや音楽会、学術講演、プライダル撮影などを実施検討 ・企業研修の場としての広報・PRの実施 	<p>周辺施設との差別化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●備北圏をメインターゲットとするリピーターの獲得を目指す。 (施策例) ・ターゲット層の分析による満足度向上・リピート率向上の対策実施 ●地域と公園との関わり方の幅を広げ、利用者増を目指す。 (施策例) ・公園サポーター精度、基金などの導入検討 ●都市部からの集客を意識した施設の魅力づくり (施策例) ・自然、緑、敷地の広さ等を活かした本公園ならではの魅力的な施設の整備検討 ・広域利用者の優遇措置の検討 	<p>施設水準や運営コストの適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●更新施設について、関連情報（日常の利用や大会開催、ニーズ調査結果、今後の動向等）を踏まえ、適正な施設水準への見直しを図る。 (施策例) ・競技大会対応使用施設の整備水準の見直し ●提供するサービスや施設維持更新費用、周辺施設の料金設定状況等を踏まえ、適正な料金設定の検討を行う。 (施策例) ・適正な料金設定の検討 ●SDGs（持続的な開発目標）に着目した整備・維持管理、更新を実施する。 (施策例) ・SDGsを意識した整備・維持管理、更新の実施 ・カーボンニュートラルの実現に向けた樹林地の適正管理 ●コスト縮減やサービス向上において効果的な新たな管理運営手法や資金調達手法の導入、ICT技術の活用等を推進する。 (施策例) ・P-PFIによる飲食施設の導入検討 ・新たな資金調達手法としてクラウドファンディングの導入検討 ・省メンテナンス植栽の導入検討 ●市民や企業の多様な形での参画を図り、維持管理コストの縮減を図るとともに、参加者の愛着の醸成を図る。 (施策例) ・民間企業のCSR等の場として公園の一部を提供 ・NPOやボランティア等が定期的に活動しやすい仕組みづくり ・市民及び企業の多様な参画の仕組みづくり

<p>【公園の基盤形成】 安全安心な環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●指定緊急避難場所としてのハード整備及びソフト施策の検討・実施 (施策例) ・災害時を想定した対応マニュアルの作成と、必要なハード整備の実施 ・定期的な防災訓練の実施 ●グリーンインフラの視点による防災機能の強化 (施策例) ・グリーンインフラの導入検討・実施
--	---

【参考】ターゲット層の特徴分析結果

社会情勢からみた公園への要請事項	
<p>1. 公共投資の抑制</p> <p>【△】①公園施設の集積と管理運営コストの低減</p> <p>【○】②健康づくり、子育て支援の取り組みによる社会保障関係費の低減への寄与</p> <p>【△】③民間活力を活用した運営の推進 (Park-PFIなど)</p> <p>【△】④新たな資金調達手法として、実施の可能性を検討</p>	<p>7. ダイバーシティ</p> <p>【△】①すべての利用者にとってストレスフリーな利用環境づくり</p> <p>【△】②バラスポーツの体験機会の創出</p>
<p>2. 人口減少・高齢化</p> <p>【○】①高齢者による多様な参加・交流機会の創出</p>	<p>8. アーバンスポーツ</p> <p>【△】①アーバンスポーツの機会の提供</p> <p>【×】②スポーツツーリズムのパッケージ化</p> <p>【△】③アーバンスポーツへ参加環境づくり</p>
<p>3. アフターコロナ</p> <p>【○】①ゆとりあるオープンスペースとしての魅力づくり</p> <p>【×】②オンライン作業などの新たな利用形態への対応</p> <p>【○】③イベントだけでなく、日常的な活用の試行</p> <p>【×】④公園を有効活用するための組織及び人材育成</p>	<p>9. 持続可能な開発目標 (SDGs)</p> <p>【○】①あらゆる人が安心・安全に過ごせる公園環境の整備</p> <p>【△】②多様な価値観やライフスタイルに対応した居場所づくり</p> <p>【○】③持続可能な公園の管理運営、長寿命化の推進</p> <p>【△】④多様な主体との協働による整備・管理運営の推進</p>
<p>4. 健康志向</p> <p>【○】①運動や身体活動の場の提供</p> <p>【○】②自然や緑を活かした魅力的なオープンスペースづくり</p> <p>【○】③仲間と運動や交流できる仕組みづくり</p>	<p>10. グリーンインフラ</p> <p>【○】①防災拠点としての機能強化</p> <p>【○】②みどりの創出・保全</p> <p>【△】③民間活力の活用による地域活性化に資する空間創出</p>
<p>5. 子育て</p> <p>【○】①公園内の子育て支援施設の充実 (ベビーコーナーなど)</p> <p>【△】②子供の年齢特性に応じた遊び場の区分や遊具の再編</p> <p>【○】③子供のための活動・学習のプログラムの検討</p> <p>【△】④ユニバーサルデザインへの対応、インクルーシブ公園としての再編</p>	<p>11. 地域とのかかわり</p> <p>【×】①都市公園での地域活動</p> <p>【△】②拠点的機能の強化による周辺地域の価値の向上に資する施設整備、管理運営</p>
<p>6. 防災意識の高まり</p> <p>【○】①防災拠点としての防災機能の強化</p> <p>【○】②公園施設の適切なメンテナンス</p> <p>【△】③グリーンインフラの保全</p> <p>【×】④メンテナンスにおけるデジタル技術の活用</p> <p>【×】⑤都市公園を活用した防災教育、普及活動</p>	<p>12. 都市公園における制度活用</p> <p>【△】①サービスの向上を図りつつ、財政縮減の手法導入</p> <p>【△】②多様なニーズやライフスタイルに対応した公園整備と管理運営</p>
	<p>13. 観光・レクリエーション</p> <p>【△】①民間活力導入による多様なニーズやライフスタイルに対応した都市公園の整備</p> <p>【△】②自然や歴史、アートなど連携を図り、賑わい創出に向けた整備方針の検討</p>
	<p>【○】取り組んでいる</p> <p>【△】一部取り組んでいる</p> <p>【×】取り組んでいない</p> <p>赤字：重点的に取り組む事項</p> <p>青字：特に維持すべき事項</p>

ターゲット層
<p>ターゲット層</p> <p>●30代・40代を中心としたファミリー層</p> <p>特徴：「子供と一緒に遊べる・体験できる施設」、「子供が学ぶ施設」を志向 (利用目的・希望施設)。その他、「イベントや催し物への参加」、「食事や休憩施設」に興味あり (あれば参加)</p> <p>●60代以上のシニア層</p> <p>特徴：「健康増進」「教室・スクールなど学ぶ・交流する機会」を志向。</p>

＜分析1＞ターゲット層は何を求めているか？

ターゲット層	30代・40代ファミリー	60代以上シニア
みよし公園	<ul style="list-style-type: none"> できればもっと利用するものとして、イベントや催し物の開催・参加、食事や休憩のニーズが高く、全体傾向と比較すると、子育て世代の講座・交流教室のニーズが高くなっている。 公園にあればよいと思う施設は、じゃぶじゃぶ池 (水遊び場)、アスレチックなどが多く、全体傾向と比較すると、じゃぶじゃぶ池 (水遊び場)が高くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> できればもっと利用するものとして、健康づくり・病気予防に関する体験教室・講座、選用手育成講座・アスリートとの交流教室、食事や休憩のニーズが高く、全体傾向と比較すると、健康づくり・病気予防に関する体験教室・講座、大規模災害時を想定した防災活動学習などで特にニーズが高くなっている。 公園にあればよいと思う施設は、ドッグラン、アスレチック、カフェ・レストランが多く、全体傾向と比較すると、ドッグラン、カフェ・レストラン、野外ステージが高くなっている。

＜分析2＞リピーターは公園で何をしていた、何に満足しているか？

リピーター	利用頻度週1回以上
みよし公園	<ul style="list-style-type: none"> 教室・スクール、子供を遊ばせるなどを目的にしている方が多く、全体傾向と比較すると、健康増進、教室・スクールが多くなっている。 温水プール、カルチャーセンター、こどもの広場などの利用が多く、全体傾向と比較すると、こどもの広場、温水プールが多くなっている。 施設満足度は、自然の豊かさが特に高く、飲食・休憩施設では低めとなっている。全体傾向と比較すると、駐車場から利用施設の近さで満足が多くなっている一方、飲食施設・休憩施設でやや不満が多くなっている。 運営満足度は、スタッフの対応が最も高く、全体傾向と比較すると、利用や予約手続きについてやや満足が多くなっている。

＜分析3＞トイレ充実化、バリアフリー化をどんな人、どこを使う人が求めているか？

	トイレの数が 不満・やや不満	バリアフリー化の状況が 不満・やや不満
みよし公園	<ul style="list-style-type: none"> 30代や40代が特に多く、全体傾向と比較すると30代が多くなっている。 カルチャーセンター、こどもの広場、温水プールの利用が多く、全体傾向と比較すると、芝生広場、多目的広場、自由広場を特に多く利用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 30代や40代が特に多く、全体傾向と比較すると30代や60代が多くなっている。 カルチャーセンター、温水プールの利用が多く、全体傾向と比較すると、しょうぶ園、自然探索道などを特に多く利用している。

(2) びんご運動公園

目指す姿と課題、取組の方向

びんご運動公園の目指す姿と課題、取組の方向（総括）

あるべき姿（30年後）3公園共通

子供からお年寄りまでの誰もが何度でも気兼ねなく訪れたいくなる「多様性」があり、「自然と都市の近接性」を実感できる場として県民から愛されるとともに、県民の健康・スポーツなどの夢や希望への「挑戦」を後押しする公園の実現

目指す姿（10年後、県立びんご運動公園）

- 多様な人々から高い満足度を得て、誰でも何度でも訪れたいくなる施設となっている。
- 尾道市を中心とする備後圏域の誰もが何らかの関わりを持ち、地域活動の場として積極的に利用されている。
- スポーツ施設では施設水準が適切に維持され、県内スポーツにおける中核施設として様々な大会開催・イベント等が行われている。また、施設更新時には、利用者ニーズに柔軟に対応するなど、レクリエーション施設も充実し、長時間楽しめる、憩える空間となっている。
- 気軽に予約・利用ができるなど、利用者へのサービスが行き届いており、満足度が高い施設となっている。

【目標指標】

- 利用者数 : 現況（H25～H30）約70万人 → 10年後 現状から手立てを講じない場合 約70万人
→ 10年後 目指す姿を実現した場合 約77万人
- 満足度の向上 : 現況（R03）89% → 10年後 約90%（各施策の実施により高い満足度を維持）

※R3利用者アンケート結果（「大変満足」「満足」「概ね満足」という回答の合計値）

現状から手立てを講じない場合と目指す姿とのギャップ

- 飲食・遊戯施設へのニーズが満たされず、バリアフリー対応が不十分となり、全体的な満足度の低下が懸念される。
- 「地域ならではの取組」に関わる人が増えず、地域活動の場としての利用増加が見込めない。
- 老朽化対策費用の不足で施設の利用制限やサービス低下などが懸念される。
- 利用料金による収入が増加しないため、サービス水準の向上が見込めず、満足度の低下が懸念される。

目指す姿の実現に向けた課題・取組

- ◆ 未活用エリアを活性化し、先駆けて多様化するニーズを満たすため、民間のノウハウや資金を活用し、公園全体の魅力を向上させ続ける。
- ◆ 利用者ニーズに対応した多様性のある施設へ更新し、高い満足度を維持し続ける。
- ◆ 地域住民が公園で活動しやすい環境を作り、公園への愛着を向上させる。
- ◆ 満足度を維持しながら、施設水準と料金設定の適正化を図り、運営コストの縮減や収入増に取り組む。

県立びんご運動公園の現状

- 多様な人、多様なニーズへの対応が不十分^{※1}
- 身近な地域の利用は多いが、関わりが不十分^{※2}
- 老朽化対策費用の予算確保が困難^{※3}
- 満足度は高いが、管理運営費の約7割は県費を投入^{※4}

※1) 「バリアフリー化の状況(43%)」「飲食施設・休憩施設(32%)」の満足度が低い、「飲食施設(カフェ・レストラン・バーベキュー場)」や「手軽に家族で楽しめる施設(アスレチック・ポルタリング)」などのニーズが高い。
 ※2) スポーツ大会・教室の除く地域イベントの開催数は0※R1、公園の改善点として「イベントや催し物の開催・参加(29%)」が上位に位置。「地域ならではの取組(43%)」の満足度が低く。
 ※3) 長寿命化計画で算出された必要な老朽化対策費(4億円/年)に対して、現状の予算は1.3億円。2.7億円の不足
 ※4) 管理運営費(R1支出)約2.3億円/年に対して、利用料金及びその他の収入(R1収入)は、約0.8億円/年

目指す姿の実現に当たって考慮すべき課題

(多様なニーズへの対応)

- ◆利用者ニーズとしては、「カフェ・レストラン」「バーベキュー場」などの飲食施設と、「ボルタリング」「アスレチック」など、手軽に家族で楽しめる施設が上位にあがっている。目指す姿の実現にあたっては、これらのニーズが高い施設を中心として、ターゲット層の志向を意識しながら、未活用エリアを活性化し、先駆けて多様化するニーズを満たすため、民間のノウハウや資金を活用し、公園全体の魅力を向上させ続ける必要がある。

(多様性への取り組み)

- ◆施設面での満足度では、「バリアフリー化の状況」の項目で満足度が低い(43%)。施設整備・更新においては、これらを意識した対応が必要である。
- ◆社会的には、子育て世代や高齢者、ダイバーシティなど、利用者の多様性への対応が求められているとともに、東京オリンピックの開催などを契機にニュースポーツやアーバンスポーツなどに注目が集まるなど、利用の多様性への対応が求められている。

(地域の人を惹きつける環境づくり)

- ◆利用者の多くは尾道市及び近隣市である福山市、三原市在住者であるが、「スポーツ大会・教室を除く地域イベントの開催実績は0※R1」であり、「イベントや催し物の開催・参加」が公園の改善点の上位にあがっている。また、「地域ならではの取組」に関する満足度が低い(43%)など、これらを対象とした公園との関わる人を増やす取組や関わり方の幅を広げる取組が十分ではない。目指す姿の実現にあたっては、尾道市及び近隣市をターゲットとし、地域と公園との関わり方の幅を増やし利用率を高める施策の展開が必要である。

(施設水準や運営コストの適正化)

- ◆スポーツ施設は比較的高水準の競技会場として整備、維持されているが、供用開始から28年が経過し、必要な老朽化対策費用(4億円/年)に対する予算確保が難しく、施設の利用制限やサービス低下などが懸念される。また、日常的な利用状況や大会開催状況と、整備水準との不整合が一部見られることから、更新時の施設水準の適正化が必要である。
- ◆上記のとおり、維持管理・更新費用が不足するなか、スポーツ振興やレクリエーション機会の創出といった公共の役割にも配慮しつつ、提供するサービスの水準や利用料金等の適正化が必要である。
- ◆SDGs(持続的開発目標)が世界的に注目されるなか、SDGsに着目した整備、維持管理、更新が必要である。
- ◆管理運営費(R1支出)は約2.4億円/年を要しているが、利用料金及びその他での収入(R1収入)は、約0.8億円/年であり、不足分は県費で補っている。十分な予算確保が難しい場合には、利用者サービスの低下を招きかねない状況である。目指す姿の実現にあたっては、限られた予算の中で、管理コストの縮減や収入増加への取組が必要である。

目指す姿の実現に向けた取組の方向（県立びんご運動公園） ※施策例あり

1	2	3	4
<p>多様なニーズへの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ●未活用エリアを対象とした多様なニーズへの対応検討 (施策例) ・未整備用地及び低未利用地の活用検討 ・ニュースポーツ・アーバンスポーツ施設の整備検討 ・P-PFIによる飲食施設の導入検討 ・Free-wifiの導入検討 ●特に要望の高い「飲食・休憩施設」「子供と手軽に遊べる施設」の導入検討 (施策例) ・キッチンカーや露店などの出店手続きの簡素化・スマート化 ・施設更新時のアスレチックやボルダリングの導入検討 ・体験プログラムの導入 ●自然、緑、敷地の広さ等を活かしたオープンスペースの魅力向上を図る。 (施策例) ・多様な使い方が可能なオープンスペースのリニューアル 	<p>多様性への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子育て世代や高齢者、障害者等が気軽に利用できるような環境づくり (施策例) ・バリアフリー対策の実施 ・子育て支援施設の整備 ●園内動線（歩車分離）やバリアフリー対応、夜間利用時の防犯、トイレやサインなどのユーティリティ施設など、日常利用の安心安全への対応。 (施策例) ・安全点検やバリアフリー点検の実施による対策箇所の抽出と段階的な対策実施 ・きれいで気持ちよく利用できるトイレへのリニューアル ・ICTを活用した利用予約の簡素化、支払いキャッシュレス化 	<p>地域の人を惹きつける環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●尾道市をメインターゲットとするリピーターの獲得やスポーツ施設の集積を活かした集客等を目指す。 (施策例) ・ターゲット層の分析による満足度向上・リピート率向上の対策実施 ・スポーツ施設の集客を活かしたスポーツ合宿推進の検討 ・Free-wifiの導入検討 ●地域と公園との関わり方の幅を広げ、利用者増を目指す。 (施策例) ・公園サポーター精度などの導入検討 ●市民や企業の多様な形での参画を図り、維持管理コストの縮減を図るとともに、参加者の愛着の醸成を図る。 (施策例) ・民間企業のCSR等の場として公園の一部を提供 ・NPOやボランティア等が定期的に活動しやすい仕組みづくり ・市民及び企業の多様な参画の仕組みづくり (再掲) 	<p>施設水準や運営コストの適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●更新施設について、関連情報（日常の利用や大会開催、ニーズ調査結果、今後の動向等）を踏まえ、適正な施設水準への見直しを図る。 (施策例) ・競技大会対応仕様施設（電光掲示板やスポーツ照明など）の整備水準の見直し ●提供するサービスや施設維持更新費用、周辺施設の料金設定状況等を踏まえ、適正な料金設定の検討を行う。 (施策例) ・適正な料金設定の検討 ●SDGs（持続的な開発目標）に着目した整備・維持管理、更新を実施する。 (施策例) ・SDGsを意識した整備・維持管理、更新の実施 ・カーボンニュートラルの実現に向けた樹林地の適正管 ●コスト縮減やサービス向上において効果的な新たな管理運営手法や資金調達手法の導入、ICT技術の活用等を推進する。 (施策例) ・P-PFIによる飲食施設の導入検討 ・新たな資金調達手法としてクラウドファンディングの導入検討 ・省メンテナンス植栽の導入検討 ●市民や企業の多様な形での参画を図り、維持管理コストの縮減を図るとともに、参加者の愛着の醸成を図る。 (施策例) ・民間企業のCSR等の場をとして公園の一部を提供 ・NPOやボランティア等が定期的に活動しやすい仕組みづくり ・市民及び企業の多様な参画の仕組みづくり
<p>【公園の基盤形成】安全安心な環境づくり</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●緊急物資の輸送拠点としてのハード整備及びソフト施策の検討・実施 (施策例) ・災害時を想定した対応マニュアルの作成と、必要なハード整備の実施 ・定期的な防災訓練の実施 ●グリーンインフラの視点による防災機能の強化 (施策例) ・グリーンインフラの導入検討・実施 	

【参考】ターゲット層の特徴分析結果

社会情勢からみた公園への要請事項	
1. 公共投資の抑制 【△】①公園施設の集積と管理運営コストの低減 【○】②健康づくり、子育て支援の取り込みによる社会保障関係費の低減への寄与 【△】③民間活力を活用した運営の推進 (Park-PFIなど) 【△】④新たな資金調達手法として、実施の可能性を検討	7. ダイバーシティ 【△】①すべての利用者にとってストレスフリーな利用環境づくり 【△】②パラスポーツの体験機会の創出
2. 人口減少・高齢化 【○】①高齢者による多様な参加・交流機会の創出	8. アーバンスポーツ 【△】①アーバンスポーツの機会の提供 【×】②スポーツツーリズムのパッケージ化 【△】③アーバンスポーツへ参加環境づくり
3. アフターコロナ 【○】①ゆとりあるオープンスペースとしての魅力づくり 【×】②オンライン作業などの新たな利用形態への対応 【○】③イベントだけでなく、日常的な活用の試行 【×】④公園を有効活用するための組織及び人材育成	9. 持続可能な開発目標 (SDGs) 【○】①あらゆる人が安心・安全に過ごせる公園環境の整備 【△】②多様な価値観やライフスタイルに対応した居場所づくり 【○】③持続可能な公園の管理運営、長寿命化の推進 【△】④多様な主体との協働による整備・管理運営の推進
4. 健康志向 【○】①運動や身体活動の場の提供 【○】②自然や緑を活かした魅力的なオープンスペースづくり 【○】③仲間と運動や交流できる仕組みづくり	10. グリーンインフラ 【○】①防災拠点としての機能強化 【○】②みどりの創出・保全 【△】③民間活力の活用による地域活性化に資する空間創出
5. 子育て 【○】①公園内の子育て支援施設の充実 (ベビーコーナーなど) 【△】②子供の年齢特性に応じた遊び場の区分や遊具の再編 【○】③子供のための活動・学習のプログラムの検討 【△】④ユニバーサルデザインへの対応、インクルーシブ公園としての再編	11. 地域とのかかわり 【×】①都市公園での地域活動 【△】②拠点的功能の強化による周辺地域の価値の向上に資する施設整備、管理運営
6. 防災意識の高まり 【○】①防災拠点としての防災機能の強化 【○】②公園施設の適切なメンテナンス 【△】③グリーンインフラの保全 【×】④メンテナンスにおけるデジタル技術の活用 【×】⑤都市公園を活用した防災教育、普及活動	12. 都市公園における制度活用 【△】①サービスの向上を図りつつ、財政縮減の手法導入 【△】②多様なニーズやライフスタイルに対応した公園整備と管理運営
	13. 観光・レクリエーション 【△】①民間活力導入による多様なニーズやライフスタイルに対応した都市公園の整備 【△】②自然や歴史、アートなど連携を図り、賑わい創出に向けた整備方針の検討
	【○】取り組んでいる 【△】一部取り組んでいる 【×】取り組んでいない 赤字：重点的に取り組む事項 青字：特に維持すべき事項

ターゲット層
ターゲット層 ●30代・40代を中心としたファミリー層 特徴：「子供と一緒に遊べる・体験できる施設」、「子供が学ぶ施設」を志向 (利用目的・希望施設)。その他、「イベントや催し物への参加」、「地域ならではの体験」に興味あり (あれば参加) ●60代以上のシニア層 特徴：「健康増進」「病気予防」などを志向。

<分析1>ターゲット層は何を求めているか？

ターゲット層	30代・40代ファミリー	60代以上シニア
びんご運動公園	・できればもっと利用するものとして、 イベントや催し物の開催・参加、プロスポーツ観戦、食事や休憩 などのニーズが高く、全体傾向と比較すると、イベントや催し物の開催・参加、地域ならではの体験のニーズが高くなっている。 ・公園があればよいと思う施設は、 ボルダリング、アスレチック が多く、全体傾向と比較すると、アスレチック、じゃぶじゃぶ池 (水遊び場) などが多くなっている。	・できればもっと利用するものとして、 健康づくり・病気予防に関する体験教室・講座、プロスポーツ観戦 のニーズが高く、全体傾向と比較すると健康づくり・病気予防に関する体験教室・講座で特にニーズが高い。 ・公園があればよいと思う施設は、 カフェ・レストラン が最も多く、全体傾向と比較すると特になしとの回答が多くなっている。

<分析2>リピーターは公園で何をしていた、何に満足しているか？

リピーター	利用頻度週1回以上
びんご運動公園	・ 健康増進、教室・スクール を目的にしている方が多い。 ・ プールや冒険の森 が特に多く利用されている。 ・施設満足度は、 自然の豊かさで非常に高い 一方、 飲食施設・休憩施設で低め となっている。全体傾向と比較すると、駐車場から利用施設の近さ、自然の豊かさなどの項目で高くなっている。 ・運営満足度は、 スタッフの対応で高くなっており、公共交通でのアクセスでは低め となっている。全体傾向と比較すると、すべての項目で満足が多くなっているが、公共交通でのアクセス、周辺施設の周遊ではやや不満、不満も多くなっている。

<分析3>トイレ充実化、バリアフリー化をどんな人、どこを使う人が求めているか？

	トイレの数が不満・やや不満	バリアフリー化の状況が不満・やや不満
びんご運動公園	・ 50代や60代 が多い。 ・ テニスコートやプール を特に多く利用している。	・ 30代や60代 が多い。 ・ プールやテニスコート を多く利用しており、全体傾向と比較すると、陸上競技場、テニスコート、健康スポーツセンターを特に多く利用している。

(3) せら県民公園

目指す姿と課題、取組の方向

県立せら県民公園の目指す姿と課題、取組の方向（総括）

あるべき姿（30年後）3公園共通

子供からお年寄りまでの誰もが何度でも気兼ねなく訪れたいくなる「多様性」があり、「自然と都市の近接性」を実感できる場として県民から愛されるとともに、県民の健康・スポーツなどの夢や希望への「挑戦」を後押しする公園の実現

目指す姿（10年後、県立せら県民公園）

- 多様な人々から高い満足度を得て、誰でも何度でも訪れたいくなる施設となっている。
- 原風景が広がる自然観察園では、ボランティア活動拠点が形成され、自然観察や環境学習などが盛んに行われ、地域に欠かせない施設となっている。
- ゆったりと憩える空間が形成されており、周辺観光施設を周遊するファミリー層が、立ち寄ってみたいくなる公園となっている。

【目標指標】

- 利用者数 : 現況 (H28~H30) 約33万人 → 10年後 現状から手立てを講じない場合 約27万人
→ 10年後 目指す姿を実現した場合 約35万人
- 満足度の向上 : 現況 (R03) 78% → 10年後 約80% (各施策の実施により高い満足度を維持)
※R3利用者アンケート結果(「大変満足」「満足」「概ね満足」という回答の合計値)

現状から手立てを講じない場合と目指す姿とのギャップ

- 飲食・遊戯施設へのニーズが満たされず、バリアフリー対応が不十分となり、全体的な満足度の低下が懸念される。
- ニーズの高い「自然活動・環境学習」が取り組みやすい環境が充足されず、さらなる活動への広がりが見込めない。
- 周辺の環境変化に対応できず、他の観光施設への利用者の流出が懸念される。

目指す姿の実現に向けた課題・取組

- ◆ 未活用エリアの活性化のため、民間の知恵・経営力を活用し、施設全体の魅力を強化する必要がある。
- ◆ 地域活動や自然保護活動・環境学習などを行いやすい環境を改善し、活動を広め、参加する利用者を増加させる。
- ◆ 周遊する利用者が立ち寄る施設となるため、せらワイナリー等の観光施設と連携を強化し、認知度向上に向けたさらなる広報活動を行う必要がある。

県立せら県民運動公園の現状

- 多様な人、多様なニーズへの対応が不十分^{※1}
- 周辺観光施設との連携が不十分(ボランティア活動拠点や観光周遊コースの形成)^{※2}
- 老朽化対策費用の予算確保が困難^{※3}
- 満足度は高いが、管理運営費のほぼ全て県費を投入^{※4}

※1) 「バリアフリー化の状況(40%)」「飲食施設・休憩施設(35%)」「公園内の情報・案内表示板」の満足度が低い、「飲食施設(カフェ・レストラン・バーベキュー場)」や「手軽に家族で楽しめる施設(冒険遊び場・アスレチック)」などのニーズが高い。
 ※2) 「自然環境保全活動・環境学習(37%)」が公園の改善点の上位に位置。本公園利用者で「せらワイナリー」を利用している人が多い(83%)
 ※3) 長寿命化計画で算出された必要な老朽化対策費(1億円/年)に対して、現状の予算は0.1億円
 ※4) 管理運営費(R1支出)約0.2億円/年に対して、収入は0

目指す姿の実現に当たって考慮すべき課題

(多様なニーズへの対応)

◆利用者ニーズとしては、「カフェ・レストラン」「バーベキュー場」などの飲食施設と、「キャンプ場」「冒険遊び場」など、手軽に家族で楽しめる施設が上位にあがっている。目指す姿の実現にあたっては、これらのニーズが高い施設を中心として、ターゲット層の志向を意識しながら、未活用エリアにおいて、民間の知恵・経営力を活用し、施設全体の魅力を強化する必要がある。

(多様性への対応)

- ◆安全安心に関する満足度は、「バリアフリー化の状況(40%)」の項目で満足度が低い。安全安心な施設整備・更新においては、これらを意識した施設整備、更新が必要である。
- ◆社会的には、子育て世代や高齢者、ダイバーシティなど、利用者の多様性への対応が求められているとともに、東京オリンピックの開催などを契機にニュースポーツやアーバンスポーツなどに注目が集まるなど、利用の多様性への対応が求められている。

(自然活動等の拡大)

◆「自然環境保全活動・環境学習(37%)」が公園の改善点の上位にあがっており、現在、ボランティア活動が行われている。目指す姿の実現にあたっては、地域活動や自然保護活動・環境学習などを行いやすい環境を継続し、活動を広め、参加する利用者を増加させる必要がある。

(周辺施設との連携強化)

◆本公園利用者は隣接する「せらワイナリー」を利用している人が多い(83%)状況である。目指す姿の実現にあたっては、周遊する利用者が立ち寄る施設とするため、せらワイナリー等の観光施設との連携を強化し、認知度向上に向けたさらなる広報活動を行う必要がある。

(コスト縮減)

- ◆管理運営費(R1支出)は約0.2億円/年を要しているが、収入がないため、不足分は全て県費で補っている。十分な予算確保が難しい場合には、利用者サービスの低下を招きかねない状況である。目指す姿の実現にあたっては、限られた予算の中で、管理コストの縮減や収入増加への取組が必要である。
- ◆供用開始から15年が経過し、必要な老朽化対策費用(1億円/年)に対する予算確保が難しく、施設の利用制限やサービス低下などが懸念されることから、更新時の施設水準の適正化が必要である。
- ◆上記のとおり、維持管理・更新費用が不足するなか、レクリエーション機会の創出といった公共の役割にも配慮しつつ、提供するサービスの水準や利用料金等の適正化が必要である。

目指す姿の実現に向けた取組の方向（県立せら県民公園） ※施策例あり

1	2	3	4	5
<p>多様なニーズへの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ●未活用エリアを対象とした多様なニーズへの対応検討 (施策例) <ul style="list-style-type: none"> ・未整備用地及び低未利用地の活用検討 ・ニュースポーツ・アーバンスポーツ施設の整備検討 ・P-PFIによる飲食施設の導入検討 ・Free-wifiの導入検討 ●特に要望の高い「飲食・休憩施設」「子供と手軽に遊べる施設」の導入検討 (施策例) <ul style="list-style-type: none"> ・キッチンカーや露店などの出店手続きの簡素化・スマート化 ・キャンプ場や冒険遊び場の整備検討 ・体験プログラムの導入 ●自然、緑、敷地の広さ等を活かしたオープンスペースの魅力向上を図る。 (施策例) <ul style="list-style-type: none"> ・多様な使い方が可能なオープンスペースのリニューアル 	<p>多様性への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子育て世代や高齢者、障害者等が気軽に利用できるような環境づくり (施策例) <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー対策の実施 ・子育て支援施設の整備 ●園内動線（歩車分離）や公園内の案内誘導、夜間利用時の防犯、トイレやサインなどのユーティリティ施設など、日常利用の安心安全への対応。 (施策例) <ul style="list-style-type: none"> ・安全点検やバリアフリー点検の実施による対策箇所の抽出と段階的な対策実施 ・きれいで気持ちよく利用できるトイレへのリニューアル 	<p>自然活動等の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自然環境保全活動・環境学習などを推進するためのコミュニティ活動の支援 (施策例) <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ活動を支援する施設整備及び活動支援策の実施 	<p>周辺施設との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●観光周遊コースの形成及び利用促進 (施策例) <ul style="list-style-type: none"> ・本公園及びせらワイナリー、その他関連が連携した観光周遊コースの形成と利用促進作成の実施 	<p>コスト縮減</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コスト縮減やサービス向上において効果的な新たな管理運営手法や資金調達手法の導入、ICT技術の活用等を推進する。 (施策例) <ul style="list-style-type: none"> ・P-PFIによる飲食施設の導入検討 ・新たな資金調達手法としてクラウドファンディングの導入検討 ・省メンテナンス植栽の導入検討 ●市民や企業の多様な形での参画を図り、維持管理コストの縮減を図るとともに、参加者の愛着の醸成を図る。 (施策例) <ul style="list-style-type: none"> ・民間企業のCSR等の場をとして公園の一部を提供 ・NPOやボランティア等が定期的に活動しやすい仕組みづくり ・市民及び企業の多様な参画の仕組みづくり
<p>施設水準の適正化</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●更新施設について、関連情報（日常の利用やイベント利用、ニーズ調査結果、今後の動向等）を踏まえ、適正な施設水準への見直しを図る。 (施策例) <ul style="list-style-type: none"> ・遊具の魅力化、更新時の整備水準の見直し ●SDGs（持続的な開発目標）に着目した整備・維持管理、更新を実施する。 (施策例) <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを意識した整備・維持管理、更新の実施 ・カーボンニュートラルの実現に向けた樹林地の適正管理 		

社会情勢からみた公園への要請事項

1. 公共投資の抑制

- 【△】①公園施設の集積と管理運営コストの低減
- 【○】②健康づくり、子育て支援の取り込みによる社会保障関係費の低減への寄与
- 【△】③民間活力を活用した運営の推進 (Park-PFIなど)
- 【△】①新たな資金調達手法として、実施の可能性を検討

2. 人口減少・高齢化

- 【○】①高齢者による多様な参加・交流機会の創出

3. アフターコロナ

- 【○】①ゆとりあるオープンスペースとしての魅力づくり
- 【×】②オンライン作業などの新たな利用形態への対応
- 【○】③イベントだけでなく、日常的な活用の試行
- 【○】④公園を有効活用するための組織及び人材育成

4. 健康志向

- 【○】①運動や身体活動の場の提供
- 【○】②自然や緑を活かした魅力的なオープンスペースづくり
- 【○】③仲間と運動や交流できる仕組みづくり

5. 子育て

- 【○】①公園内の子育て支援施設の充実 (ベビーコーナーなど)
- 【×】②子供の年齢特性に応じた遊び場の区分や遊具の再編
- 【○】③子供のための活動・学習のプログラムの検討
- 【×】④ユニバーサルデザインへの対応、インクルーシブ公園としての再編

6. 防災意識の高まり

- 【-】①防災拠点としての防災機能の強化
- 【○】②公園施設の適切なメンテナンス
- 【△】③グリーンインフラの保全
- 【×】④メンテナンスにおけるデジタル技術の活用
- 【×】⑤都市公園を活用した防災教育、普及活動

7. ダイバーシティ

- 【△】①すべての利用者にとってストレスフリーな利用環境づくり
- 【×】②パラスポーツの体験機会の創出

8. アーバンスポーツ

- 【×】①アーバンスポーツの機会の提供
- 【×】②スポーツツーリズムのパッケージ化
- 【×】③アーバンスポーツへ参加環境づくり

9. 持続可能な開発目標 (SDGs)

- 【○】①あらゆる人が安心・安全に過ごせる公園環境の整備
- 【△】②多様な価値観やライフスタイルに対応した居場所づくり
- 【○】③持続可能な公園の管理運営、長寿命化の推進
- 【△】④多様な主体との協働による整備・管理運営の推進

10. グリーンインフラ

- 【-】①防災拠点としての機能強化
- 【○】②みどりの創出・保全
- 【△】③民間活力の活用による地域活性化に資する空間創出

11. 地域とのかかわり

- 【○】①都市公園での地域活動
- 【○】②拠点的功能の強化による周辺地域の価値の向上に資する施設整備、管理運営

12. 都市公園における制度活用

- 【△】①サービスの向上を図りつつ、財政縮減の手法導入
- 【△】②多様なニーズやライフスタイルに対応した公園整備と管理運営

13. 観光・レクリエーション

- 【△】①民間活力導入による多様なニーズやライフスタイルに対応した都市公園の整備
- 【△】②自然や歴史、アートなど連携を図り、賑わい創出に向けた整備方針の検討

- 【○】取り組んでいる
 - 【△】一部取り組んでいる
 - 【×】取り組んでいない
- 赤字：重点的に取組む事項
青字：特に維持すべき事項

ターゲット層

- 30代・40代を中心としたファミリー層
特徴：「子供と一緒に遊べる・体験できる施設」、「子供が学ぶ施設」を志向（利用目的・希望施設）。その他、「イベントや催し物への参加」、「食事や休憩」に興味あり（あれば参加）
- 60代以上のシニア層
特徴：「健康増進」「病気予防」「教室・スクール」などを志向。その他、「カフェ・レストラン」などの飲食施設、「学習・交流など」の機会、「ドッグラン」などを希望

＜分析1＞ターゲット層は何を求めているか？

ターゲット層	30代・40代ファミリー	60代以上シニア
せら県民公園	<ul style="list-style-type: none"> ・できればもっと利用するものとして、自然環境保全活動・環境学習、食事や休憩のニーズが高く、全体傾向と比較すると、子育て世代の講座・交流教室、お得なクーポンや他施設との周遊割引で高くなっている。 ・公園があればよいと思う施設は、冒険遊び場、アスレチックが多く、全体傾向と比較すると、冒険遊び場、じゃぶじゃぶ池（水遊び場）などが多くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できればもっと利用するものとして、食事や休憩、自然環境保全活動・環境学習、イベントや催し物の開催・参加のニーズが高く、全体傾向と比較すると、年齢・障害に関わらず参加しやすい講座・イベント、フォトスポットでの撮影が高い。 ・公園があればよいと思う施設は、カフェ・レストラン、キャンプ場などが多くなっている。

＜分析2＞リピーターは公園で何をしていて、何に満足しているか？

リピーター	利用頻度週1回以上
せら県民公園	<ul style="list-style-type: none"> ・花や緑など自然鑑賞、子供を遊ばせることを目的とした利用者が多く、全体傾向と比較すると、花や緑など自然鑑賞、教室・スクールなどの目的が多くなっている。 ・自然観察園や交流広場が特に多く利用されている。 ・施設満足度は、自然の豊かさ、利用料金で高い一方、飲食施設・休憩施設、バリアフリー化の状況で低めとなっている。全体傾向と比較すると、然の豊かさで満足が多くなっている一方、バリアフリー化の状況で普通が多くなっている。 ・運営満足度は、施設の空き具合、スタッフの対応が高く、公共交通でのアクセスで低めとなっている。全体傾向と比較すると、公園の利用者のマナーでやや満足が多くなっている一方、公共交通でのアクセスで不満が多い。

＜分析3＞トイレ充実化、バリアフリー化をどんな人、どこを使う人が求めているか？

	トイレの数が不満・やや不満	バリアフリー化の状況が不満・やや不満
せら県民公園	<ul style="list-style-type: none"> ・70代以上が多い。 ・レクリエーション広場、多目的広場を多く利用しており、全体傾向と比較するとレクリエーション広場、ミニチュアガーデン、多目的広場の利用が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・40代や50代、70代以上が多い。 ・自然観察園、交流広場、のんびり草原を多く利用しており、全体傾向と比較すると、自然観察園を多く利用している。